

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7 年 3 月 24 日

公表:令和 7 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘蒲郡

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		十分なスペースがあり、遊具の位置等活動に応じて工夫してある。	
	2 職員の配置数は適切である	○		利用人数に応じて配置数を考えている。急なお休みの場合も非出勤の職員に協力してもらい、適切に配置できている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	△		玄関の段差、ウッドデッキから降りて外へ遊びに行く時の段差など、全てがバリアフリーにはなっていない。玄関までスロープが設置されている。	配慮が必要な場面では、危険の無いよう見守ったり補助を行ったりしていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		利用児の様子に合わせて遊びを変えたり次につなげたりしている。職員会議やパート会議を月1回行うことで、職員が参画できるようにしている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は受けていないので、今後検討します。
適切な 支援の 提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		必要だと思う内容の研修には積極的に参加している。受けた研修内容はその他の職員に会議等で伝えている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		モニタリングで保護者の思いを受け止めた上でアセスメントを行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		1人の意見にならないようにしている。職員会議や時間のある時に、声に出して活動プログラムを考え決定している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		放デイ用に遊びを難しくしたり様々な活動ができるように日々考えている。週ごとに活動の内容を考えている。発達や季節に合わせて計画をしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇の際は、宿題を持って来る子が多くなる為、スケジュールを利用児と一緒に決めている。活動を通して個々の課題に取り組めるよう支援している。長期休暇は児発の利用児と関わりがあるので、放デイの利用児の長所を伸ばせるようにしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		主体性を大切にしながら、個の時間や集団の時間を作ってる。集団活動が苦手な子に対しても、活動を見たり触れられたりできるように計画している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	△		必ず打ち合わせをして分担することはできていない。(活動の打ち合わせは始まる前にはしている)前日またはその日の朝にホワイトボード等を利用して、言葉で確認している。	活動の打ち合わせはしていますが、個々の課題などどの点に留意して支援をするかは毎日支援開始前に必ず打ち合わせができていないわけではないので、支援の質を高めるためにも機会を作るよう努めています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		記録や業務日報を残しながら利用児の様子を話し合ったり、遊びでもっと工夫できた点などを伝え合っている。終了直後にはなかなか話せない。後日振り返りを行う。	個々に振り返りはできていても、出勤時間などの関係でその日のうちに共有できるものそうでないものがあるので、できる限りその日のうちに振り返りや共有ができるよう時間を工面していきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		クラウドサービスを利用して保護者へ記録を送ると共に、ケア記録をつけている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者に連携の必要性を確認した上で情報共有を行っている。 送迎はしていないが、関係機関連携会議で情報共有をしている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/		対象者なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		1年生の場合や情報が欲しい場合、園や児童発達支援事業所に聞き取りをしている。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/		対象者なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		△	今後交流ができるようにしていけるといいなと思う。 機会は少ないが、併設の「むつみの丘」の子どもたちと戸外で遊ぶことがある。	児童クラブや児童館に向くことはなかなか難しいですが、隣の公園に遊びに来る小学生との交流を積極的に行っていこうと思います。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		参加できる時は参加する。	令和6年度は7月と2月に『蒲郡市障害者自立支援協議会専門部会 子ども部会』へ参加しました。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際に伝えることや保護者との会話を大切にしている。 送迎の際に家庭での様子を聞いている。		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	△	○		ペアレント・トレーニングとしては行っていませんが、必要な方へはその都度一緒に考えたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に丁寧に説明している。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		家庭支援加算を取らせてもらっている。(必要な時には声を掛けている) 常に話しやすい環境を作り、一緒に考えたり相談したりできるようにしている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		2~3か月に1度の親子イベントにて、保護者交流会の時間を作っている。		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		利用児同士のトラブルがあった際には、細かく保護者に伝える他、対処できることは行っている。 苦情だけでなく悩みを聞いた時にも、その都度対応している。 今のところ苦情はなが、対応できる体制を作っている。		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		季節の行事を行った時は、クラウドサービスにて発信している。 お知らせや活動内容を配信している。		
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵のあるロッカーに収納している。		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今のところできていないが、将来的に行事として計画をしていきたい。	見学の受け入れは常時行っていますが、事業所の行事への招待等については行っていませんので、どのような形なら実施が可能か今後検討していきます。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		職員は定期的に確認をしている。 策定しているが、保護者への周知がうまくできていない。	保護者へは、契約時に目を通してもらうなど、周知の方法を検討します。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		併設している「むつみの丘」と一緒に行っている。		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員会議やパート会議で研修を行っている。		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行わなければいけない利用児はいない。	現在対象者になり得る利用児はいませんが、身体拘束に関する職員の知識向上には努めていきます。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーについて詳しく聞き取りし、対策している。 指示書をもっている利用児はいない。		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				